



基礎物理学研究所

村瀬雅俊 准教授

略歴

- 1982 東京大学(薬学部薬学科)卒業。
- 1984 同大学修士課程(薬学系研究科、製薬化学)修了。薬学博士、東京都老人総研助手を経て助教授(現准教授)に。

今回のACADE見ICでは、ポケゼミ「生命とは何か」、そして国際会議「What is Life?」を主催された村瀬雅俊先生にお話を伺ってきました。(VA)

「生命とは何か」というテーマ

「生命とは何か」には、学生時代から興味があったんですが、そのときは生命現象に物理学からアプローチしようと思っていました。筋肉の運動や鞭毛の動きを研究していたんですが、それは生命がなくても、プログラムを工夫しただけで再現できました。では、生命なくして成立しない現象は何だろうと思って、老化について研究するようになったんです。当時、唯一老化研究を行っていた研究所にいたのですが、皮肉なことにその中で活動していたときには老化についてわかりませんでした。老化した人間のデータを集めて研究していたのですが、それは老化の結果を記述してるだけですよね。

今の研究所に移って研究を進めるうち、老化やそれから派生するガンは、細胞レベルでダーウィンの進化論が展開された結果だという考えに行き着きました。その内容の論文はすでに提出されてしまっていたのですが、それは分裂していく細胞の説明だけでした。ならば分裂しない細胞の老化について研究しようと思い、1996年に論文を発表しました。学生時代からなかなか手の届かなかったテーマ

に、20年かかってやっと手が届いた実感がありましたね。

「死」の意識

僕の論文に対して、精神分野の先生から「分裂病(今の統合失調症)に対しての私の見解がすべて書かれている」というコメントを受けまして、ひとつの現象形態が、さまざまな分野に応用できるということがわかりました。そこから精神疾患についても併せて研究し、2001年、『こころの老化としての「分裂病」』を執筆しました。

ここまで来て、だいぶんと生命現象がわかったな、と思ったんです。ところが足元を見ていませんでした。そのとき僕は、シックハウスに住んでいたんです。短期記憶がなくなり、味覚がなくなり、化学物質や音に反応して痺れが出るようになっていきました。空気環境によって、いわゆる「鬱」という精神状態にいつも簡単に陥ってしまい、もう命を捨てたいとさえ思いました。……そうして僕は、生命を考える自分の研究に「環境」という項目が抜け落ちていたことを、身をもって知ることになったんです。

ポケゼミ「生命とは何か」

自分の今までの研究の集大成として、メタ生物学という分野を取り上げたかったんです。生物学は生物をそのまま見るだけでは不十分です。なぜなら、見ている人間も生物の一部ですから。生物について認識した、その「人間の認識」を認識する「メタ認識」が必要です。「認識」と「メタ認識」を統一しつつ生物を研究するのがメタ生物学です。

未だに、記述というのは、観測者と観測対象が切り離された状態でできるものとされています。でも、生物学などはそうはいきません。自身をも取り込んだ認識が必要であることを次の世代に伝えたいと思い、ポケゼミを開講しました。

国際会議「What is Life?」

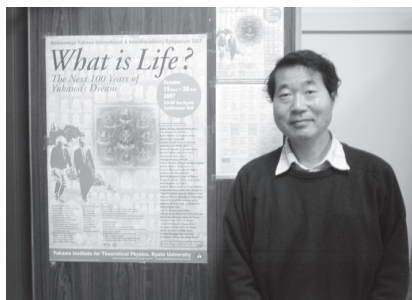
世界中から、研究所長、学部長、京大関係でも霊長類研究所などから、著名な方々を集めることができました。コネクションは、実は全く無い状態でした。無

はみだし
すてーじ

そうか、右にあったのか!?
⇒落とし物が見つかりましたね。

(医・4 もーにんぐハゲもと)
(これで安心……? ; 編)

謀に思われるかもしれませんが、私は、湯川秀樹先生の言葉から、「熱意のある人は、書いた文章からも熱意が感じられ、他人の文章の熱意を感じることができる」ことを学んでいました。私がお誘いした先生方は、著作を拝見して決めました。著作から熱意を感じた方々は、国際会議に熱意を持って取り組んだ私の手紙やメールに対しても何らかのレスポンスを返してくださいました。熱意さえあれば、仮にあなたたち学生がお誘いしても、今回集まって頂いた先生方はきっといらっしゃるでしょうね。そうして、何のコンネクションも無いところから、まさ



▲国際会議ポスターと村瀬先生。

に「生命」が持つ心と心のつながりによって、ひとつの大きな会議を成功させることができました。

先生自身の 生き方について

自分が考えていることが人に伝わって、展開されていくように実践していきたいです。ポケゼミも国際会議も、自分の考えを伝える手段の一部でした。考えの例を挙げると、普通は知識って、本から得るブックノレッジであって、それを元に行動すると思われがちですけど、実際は逆なんです。行為が先で、無意識なうちに行為を知識に変えていくんです。これは、「禅」が目指していることなんです。「禅」のような東洋の思想は、西洋科学に押されてしまっていますが、そもそも対立しているもののどちらかを切り捨てることを前提にするのは、西洋科学の方針です。矛盾する事柄を共存させる東洋思想も、西洋科学と共存させてあげるべ

きだと思うのです。対立は無限に生まれていきますが、それをその都度潰していこうとしては、新しい構造は生まれてはきません。

国際会議ポスターには、曼荼羅^{まんだら}を印刷しましたが、曼荼羅は私の考え方を表現してくれる絵です。全体は複雑に見えて、本質の法則は単純。矛盾が共存して、無限の広がりが生まれます。これは生命や認識にも言えると思っています。

学生時代

僕は2浪して大学に入っていますから、当時は現役生や1浪の人が羨ましかったですよ。でも、入ったとたんに遊ぶ人を多く見ましてね。2年遅れの僕は、無駄な時間は過ごしたくない、と思いました。ひとつ決めていたのは、勉強以外に何か趣味を持っておくこと。それで、コールアカデミーという男声合唱団に入りました。週3回練習があつて、昼休みも潰れました。責任者になったときには、実験などは出席だけ取ってもらって部活に行つたので、出席点以外の評価は悪かったです。でも、授業では学べないことを多く学びましたよ。本から学ぶことと、人とのつながりで学ぶことがありますよね。どちらも重要です。



▲国際会議での村瀬先生。

質問コーナー

・オススメの一冊は？

湯川秀樹先生の『目に見えないもの』。先生が若いころに書かれた作品ですが、物理学と同時に、精神についても触れています。

・What is らいふすてーじ？

ユーモアが通じる冊子ですね。特にはみだしすてーじが面白い。そこだけ読んで戻してたりしてました。でも、僕の記事は読みますよ（笑）。

・休日の過ごし方は？

実家が滋賀県の朽木^{くつき}という自然豊かなところなのですが、そこで散歩したり、釣りをしたり、果物を取って食べ

たり。「生」を実感できることをしています。自然の中にいると、室内で机にかじりついてるだけでは行き詰まっていたことが解決したりもします。

・学生時代の恋愛は？

あっはっはっはっはっ！ えっとですね、1浪したときに予備校で隣の席になった子がチャタリングで、仲良くなって付き合い始めて、——そもそもそれが2浪した原因ですけどね（笑）。だから、正確には予備校時代からの恋愛ですね。2浪したことで向こうの両親から付き合いを禁止されて、そこから向こうの両親と忍耐比べを10年。その子が私の妻ですよ。

はみだし
すてーじ

数えたら煩惱が108を超えました。

⇒はみだした煩惱は、どうやら左の方が落としましたよ。

(理・4 Luner Cat)
(そのうち1割は拾ったあなたのもの；編)